2026年10月21日
T.Kobayashi

佐倉市の地名の歴史・由来を探る
その 3：佐倉市南部の地名

●天辺（あまべ）： https://yahoo.jp/uL_vBm
東関東自動車道の佐倉 IC の東側に位置し、高崎川の中流の海抜30m ほどの里山になる。
東側は高崎川の支流（南部川）の流れになるが、山の高さも海抜30m程度なので、「天辺（てっぺん）」とは言えない。由来が気になって調べたら、印旛郡余戸郷（あまるべごう）と言われていたのが、転じて「あまべ」となったのではないか、という情報を見つけた。
古墳や遺跡がいくつか発掘されて、縄文時代から平安時代にかけての物が確認されている。
印旛郡天辺村だったが、周辺14ケ村が合併して和田村となり、昭和29年に佐倉市になった。

●飯塚（いいづか）： https://yahoo.jp/TYTigQ
印旛郡飯塚村だったが、明治22年に岩富町、岩富村、七曲村、西御門村、宮内村、内田村、坂戸村と合併して弥富村になった。
鹿島川と弥富川の合流地点の台地にある飯塚古墳群は16基の古墳や遺跡が発掘されている。この地を抑えていた人の墓と考えられている。

●石川（いしかわ）： https://yahoo.jp/UGMvYW
高崎川と弥富川の合流点の左岸の海抜30m前後の台地。一般的には川の流れが石を転がして運んでくる所に「石川」という地名が多いので、いずれかの川がしばしば荒れる流れだったということか。現在は工業団地と住宅地が分け合っている。

●岩富（いわとみ）： https://yahoo.jp/yPwQZJ
1455年足利重氏がこの地の領主となった。1472年に岩富城が造られた。
元は千葉氏の家老である原氏が押さえていて、のちに弥富原氏が岩富城を構えた。
徳川家康の関東進出に伴って小田原北条氏の北条氏勝が一万石を得て岩富藩を構えた。跡を継いだ北条氏重が慶長18年に下野富田藩に移封になり、岩富藩は廃藩。
古くは「弥富郷」と言われていたこともあり、明治の町村制施行時に弥富村として起立した。

●岩富町（いわとみまち）： https://yahoo.jp/yEnSHt
岩富の南側に岩富町がある。旧岩富村のうち、旧岩富城の城下町だった地域が岩富町となり、この残りの地域が岩富村となった。
明治22年町村制施行にあたり、岩富町・岩富村・坂戸村・内田村・飯塚村・宮内村・西御門村・七曲村が合併して弥富村となった。弥富村は昭和29年に佐倉市になり、元の町村名は字地名として残った。

●内田（うちだ）： https://yahoo.jp/RrVDPb
旧弥富村を構成する八町村のひとつ（内田村）。鹿島川右岸で、対岸は千葉市若葉区。
地名から察すると、古来の米作地帯だったのだろうか。

●瓜坪新田（うりつぼしんでん）： https://yahoo.jp/8PgPjup
佐倉市の東端で、八街市との市境になり、最寄り駅は総武本線の榎戸になる。
高崎川源流で、西隣は坪山新田。
佐倉藩領だったが、明治になり瓜坪新田村となり、和田村となり、昭和29年に佐倉市になった。新田開発された時期を調べたがわからなかった。八街市との市境や近隣の町との境界が

入り組んでいたり、飛び地があったりで、地図を眺めていると、どんな経緯があったのかと気になってしまう。

●大崎台（おおさきだい）：https://yahoo.jp/XsbxQK

総武本線佐倉駅の駅前から南東に伸びる新興住宅地。町名の由来はわからない。

●大作（おおさく）：https://yahoo.jp/QSkUuv

佐倉 IC の南側に位置し、海抜 30m弱の台地になっている。工業団地造成にあたり多数の古墳や遺跡が発掘されて、大作遺跡・大作古墳群と言われている。

●大篠塚（おおしのづか）：https://yahoo.jp/uRWeRp

総武本線の物井駅の東側にある海抜30m ほどの台地の先端になる場所で鹿島川の北岸に大篠塚城（山城）があったことはわかっているが、築城時期など詳細は明らかになっていない。遺構から見るとかなり立派な山城だったようである。

東隣の小篠塚に千葉氏が造った城があることから、この城も千葉氏と関係していると考えられる。

●太田（おおた）：https://yahoo.jp/ZrtaLT

総武本線物井駅の北東の台地。東半分は工業団地になっている。西半分の内鹿島川の東岸には農地が広がり、東側の高台には農家が並ぶ、懐かしい田舎風景の構図が感じられる。

鹿島川が対岸の四街道市との境界になっている。

●上勝田（かみかつた）：https://yahoo.jp/PAouse

総武本線南酒々井駅の南東にあり、八街市との市境になる。高崎川の支流である勝田川の上流にあるのが上勝田で、下流にあるのが下勝田。

●上別所（かみべっしょ）：https://yahoo.jp/nxLhRg

荘園の外に新たに開拓した郷や集落など新田のような場所を「別所」と言ったが、上別所があっても「下別所」がないのが不思議。

大きなお寺の別院があった所にも付けられる地名だが、近隣を見てもその可能性は低い。

川を挟んで対岸に「別所崎」「別ケ野」という地名があるので、何か関係があるのかもしれない。

●木野子（きのこ）：https://yahoo.jp/t6nGsd

東関東自動車道の佐倉ICの周囲。昔は印旛郡木野子村と言われていた。九ケ村の合併により根郷村となり、昭和29年に佐倉市の起立に加わった。

本土寺過去帳に、延徳5年（1493年）に「キノ子彦次郎」という人物がいたことを示す一文がある。この人に関係する地名と思われるが、これ以上の情報は見つかっていない。

●神門（ごうど）：https://yahoo.jp/w2o6QM

江戸時代には神戸村と言っていた。香取神宮への参詣の道筋で、神の戸・神の門があったことによる地名と言う説が有力。

●小篠塚（こしのづか）：https://yahoo.jp/t28n2K

大篠塚の東側で、台地の上部になる場所で、千葉氏が造った山城があった。

文明3年（1471 年）山内上杉氏に古河城を追われた古河公方足利成氏が、本佐倉城の千葉孝胤を頼って小篠塚城に入ってきた。

ところが、文明11年になり古河公方足利政氏の代になり、千葉孝胤との関係が悪化して、足利政氏は小篠塚城を拠点として本佐倉城に攻め入った。

大篠塚城はこの時期にできたと考えられる。

●米戸（こめど）：https://yahoo.jp/6DgVJX

元は印旛郡米戸村だった。十五ケ村が合併して和田村になり、昭和29年に佐倉市になった。
高崎川の支流の上流になる。八街市との市境にある。
地名の持つ意味や由来・歴史はわからない。

●坂戸（さかど）：https://yahoo.jp/PTEeYn

国道51号線から八街方面への道が分岐する所。弥富郷の西の端に位置し、明治22年に郷内のハケ村が合併して弥富村になり、昭和29年に佐倉市になった。
鹿島川と支流（弥富川?）の合流地点なので、「戸」は当て字で、元は「渡（ど）」だったのではないかという説もある。また、合流地点で見られる川の逆流現象から「逆（さか）」も考えられる。

●寒風（さむかぜ）：https://yahoo.jp/wA2bmc

佐倉 IC の北側に位置し、高崎川の支流南部川の北岸の里山。印旛郡寒風村だった。
集落の北側に塩釜神社があるが、主祭神が宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）と天日鷲命（あめのひわしのみこと）で、塩釜とは関係しない。ところが、この地から北東に 3Km ほどの所にある墨六所神社は「陸中の塩釜神社を勧請した」となっている。この地と製塩の関係もわからない。調べたくなるような不思議が沢山ある村である。

●山王（さんのう）：https://yahoo.jp/SCDeRZ

総武本線物井駅前に開発された町で、敬愛大学と住宅地がある。鹿島川東岸の台地で、東端の最高地点は海抜 24mある。一般的には、山王と言う町には山王神社があるか、山王信仰が盛んだった土地である場合が多いが、この地にはそれらを感じさせるものは見当たらない。宅地開発の時に「昔」を壊滅してしまったのだろうか。

●下勝田（しもかつた）：https://yahoo.jp/QcRUBD

総武本線南酒々井駅の南東にあり、八街市との市境になる。高崎川の支流である勝田川の上流にあるのが上勝田で、下流にあるのが下勝田。

●城（じょう）：https://yahoo.jp/sSSaw7

明治22年に城村だったが、のちに九ケ村が合併して根郷村になり、昭和29年に佐倉市になった。「根郷」という村名は、台地（尾根）の根元の集落を意味する。
「佐倉市城」という地名は佐倉城をイメージしてしまうが、佐倉城からはかなり離れており、佐倉 IC の北側に位置している。

●高崎（たかさき）：https://yahoo.jp/ZDEm23

佐倉 IC から北東に広がる町で、高崎川の中流の里山。支流との合流点に突き出した海抜30m前後の舌状台地は、周囲からの景観としては、まさに「高い」「崎」になっている。
印旛郡高崎村から、和田村になり、佐倉市になった。
真言宗豊山派の寺、高崎山正光院がある。天正19年（1591年）の太閤地検帳に寺領として記載がある。酒々井町の東光寺の末寺とのこと。

●坪山新田（つぼやましんでん）：https://yahoo.jp/PPn8qa

八街市との市境に位置し、瓜坪新田の西側になる。江戸時代に新田開発されたが、林・畑で近隣の村の者が利用していた。

●藤治台（とうじだい）：https://yahoo.jp/nQc6D5o

昭和60年前後に、佐倉市城の北側に宅地として開発された。藤治台という地名の由来を調べたがわからなかった。

●直弥（なおや）：https://yahoo.jp/9LxWHP

人の名前を連想させる地名で気になったが、由来がわからない。
印旛郡直弥村から和田村になり、佐倉市になった。
直弥の北端にある真言宗豊山派の寶金剛寺（ほうこんごうじ）は、建仁3年（1203年）創建。
小田原北条氏勝が岩富城に入った時に、この寺の大檀那となり、数々の寄進を行ったという記録が残っており、北条氏勝の墓跡が残っているとのこと。

●七曲（ななまがり）：https://yahoo.jp/Na--6Xt

鹿島川上流の北岸で、八街市との市境に位置する。平安時代には白井荘という荘園の一部で、鎌倉時代には比叡山延暦寺の荘園だったという記録がある。この間は白井次郎常親を祖とする白井氏が支配していた。白井荘には、弥富川に沿って塩古郷と弥富郷があり、南北朝時代には真言密教の拠点だった。江戸時代初期には下総國印旛郡塩子村（郷）だったが、七曲村として分村した。佐倉藩領・幕領の時代もあり、
明治22年に七曲村となり、のちに弥富村の字地名になり、昭和29年に佐倉市になった。

●西御門（にしみかど）：https://yahoo.jp/xWwTd3

鹿島川を挟んで七曲の対岸にある。七曲と同様に、江戸時代初期には下総國印旛郡塩子村（郷）だったが、分村した。佐倉藩領・幕領の時代もあり、明治22年に西御門村となり、のちに弥富村の字地名になり、昭和29年に佐倉市になった。八街市との市境になる。
八街市根古谷（ねごや）にあった根古谷城の西門だったことによる地名である。
享徳年間（1450年頃）に千葉氏の家臣園城寺氏によって築城されたが、康正元年（1455年）千葉氏滅亡により園城寺氏も滅び、粟飯原（あいはら）氏が城主となった。のちの北条氏の滅亡とともに落城した。

〇春路（はるぢ）：https://yahoo.jp/RiH7vS

総武本線佐倉駅の南側の台地の東端で、高崎川の左岸になる。藤治台と同様に、佐倉市城の一部の宅地開発された場所に付いた地名か？

●馬渡（まわたし）：https://yahoo.jp/5-2EyP

成田・香取へ向かう街道が鹿島川を渡る所にある。馬を渡した所だったことから生まれた地名と考えられる。渡し場がある宿場になっていた。
幕末・明治初頭には、印旛郡旭村の字地名だった。昭和29年に佐倉市が起立する時にはまだ旭村で、昭和30年に佐倉市に加わった。
1830年創業の酒蔵があるが、主力商品の名が「旭鶴」で、村の成り立ちを表している。

●宮内（みやうち）：https://yahoo.jp/VvuEvB

弥富郷の八ケ町村のひとつで、元は印旛郡宮内村と言った。正國寺・八幡神社がある場所に、宮内城があった。「宮」とは、八幡神社のことだろうか。
正國寺と同じ敷地の中にある神社で、天文20年（1551年）創建、主祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと：応神天皇）

●宮本（みやもと）：https://yahoo.jp/qmB4oD

印旛郡宮本村から和田村になり、佐倉市になった。佐倉 IC の東側に位置している。
臼井荘宮本郷と言われていた。地元の鎮守として祀られていたが、延宝3年（1675 年）には山王権現本地十一面観世音寶宮と称していた。この「宮」ゆえの地名と考えられる。
山王宮は、国道51号線から東側に少々入った所にある。

●六崎（むつざき）：https://yahoo.jp/tS-JKK

JR 佐倉駅の南側で、30～40%ぐらいの面積はフジクラの佐倉事業所が占める。
九ケ村が合併して根郷村になり、昭和29年に佐倉市になった。
六崎大崎台遺跡からは弥生時代中期の住居群などが発掘確認されており、この台地の上には古代の人々の暮らしがあったことがわかっている。

●八木（やぎ）： https://yahoo.jp/8_gcsU

佐倉駅から東に伸びる線路が総武本線と成田線に分岐する地点の南側が八木の町である。
北は高崎川に面した農地で、南側は海抜 30m前後の里山で、谷沿いに集落が並んでいる。
元は八木村と言ったが、南部の村が合併して和田村になり、昭和29年に佐倉市になった。
集落の東西に、真言宗豊山派の不動院と東福院があるが、いずれも直弥の北端にある寶金剛寺（ほうこんごうじ）の末寺である。

●弥富（やとみ）： 特別に追記

下総國印旛郡弥富郷と言われていた。明治22年町村制施行にあたり、岩富町・岩富村・坂戸村・内田村・飯塚村・宮内村・西御門村・七曲村が合併して弥富村となった。
昭和29年に佐倉町・臼井町・志津村・弥富村・根郷村・和田村が合併して佐倉市となり、弥富と言う地名は消滅したが、地域を示す表現として残っている。

以上

＊関連資料

佐倉市の地名の歴史・由来を探る その 1：佐倉市中部の地名
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura01.pdf

佐倉市の地名の歴史・由来を探る その 2：佐倉市北部の地名
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura02.pdf

佐倉の町はこんな町 ＜佐倉市はこうして生まれた＞
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura00.pdf